

3つの質問をしました

1 高齢者の移動手段の確保を

高齢者の移動支援を担ってきた「ほっとライフ」が今年度一杯で閉じようとしています。そうすると、約200人の利用者が、困るだけでなく引きこもって介護保険に頼らざるをえなくなってしまうでしょう。

高齢者の移動手段の確保について、対応を考えるように求めました。



◎町としても他市町の事例等を研究すること。

◎一方、危機感をもつ方々で「高齢者等移動困難者の移動支援について考える住民の会」が発足しました。

2 町内でお金を循環させる

仕組みづくりを

使うお金が町の中で回るようになります、町が潤います。

ただ、現状は大手電力と契約することによって電気代は首都圏の本社に。農薬や化学肥料代は、それを作った町外の企業にいってしまいます。

それを町内の新電力に切り替え、ゆくゆくは町内で発電することができれば、また、肥料も町内で残飯から発酵させて作った液肥を使えば、お金は町内に残ります。



このような仕組みを整えれば、お金を町の中で循環させることができます。そこを求めたのですが、運送費増や液肥化プラントの老朽化もあり、難しいとのことでした。

3 パトリアおがわの再編と利活用に関する今後の方針

今まで利活用してきた住民にとって、パトリアの再整備は期待大です。

コンサルと町によって検討していますが、住民の声も聞いて反映できることがあれば取り入れ、納得のいくカタチで計画を立てるよう求めました。

↓
原案ができたら、パブコメ等を行う模様です。



埼玉・小川町議会議員

鈴木ひでなおの

9月議会報告

令和7年11月

発行及び編集人 鈴木ひでなおを育てる会



YouTube

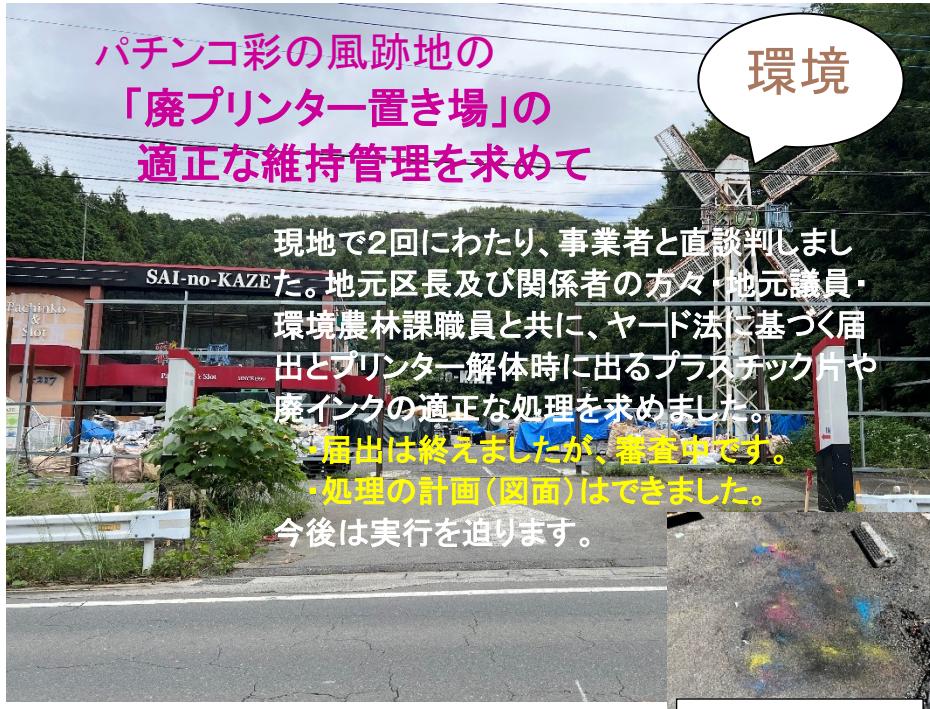


ホームページ

※9月議会の詳細については、町の議会だより117号をご覧ください。

パチンコ彩の風跡地の 「廃プリンター置き場」の 適正な維持管理を求めて

環境



高齢者の移動手段の確保と充実 を実現するために

シニア



高齢者が自分で買い物や通院できることは、認知症やフレイル予防にもなります。逆に言えば、それができなくなれば、気力や体力を失い、ひきこもってしまうことが危惧されます。つまり、免許を返納した方や免許のない方のための移動手段は欠かせません。

- ・移動サービスの継続
 - ・公共交通機関の再構築
- について考えていきます。

こんなこと、お伝えしたいです！

子どもたちの居場所づくり に向けて

子育て



放課後や休日・長期休業中の子どもたちの居場所として、学童・放課後子供教室(週1回)・子ども食堂・パトリアの児童館等があります。しかし、そのように大人が用意したものではなく、子どもが行きたい時に自由に過ごせる場所も必要です。それが、徒歩か自転車で行ける所にあることが重要です。子どもたちの声を聞きながら、そのような場を求めていきます。

アラカルト

平和の持続を ～高校生と風船爆弾作りを体験～

太平洋戦争末期、風船爆弾が小川和紙で作られ、アメリカ本土に約1万発飛ばされました。その気球部分は和紙をコンニャク糊で貼り合わせるのですが、それを担ったのは、女子生徒たちでした。隙間なくぴったり貼り合わせる作業を朝から晩まで行い、指の指紋がなくなるほどでした。

その体験を小川高校の協力をいただき、女子高生に体験してもらいました。結構な作業をして、戦争になると自由がなくなる・大変等、実感してもらえたようです。このような取組が平和に繋がるのではと考え、取組みました。



直径 10m もありました